

一般社団法人 日本小児血液・がん学会
第 59 回（令和 3 年度第 1 回）理事会議事録（案）

日 時：令和 3 年 5 月 28 日（金） 15：00～17：20

開 催：web 会議

ホスト：学会事務局（東京都文京区大塚 5-3-13 学会支援機構内）

出席者：大賀 正一（理事長）、米田 光宏、滝田 順子（副理事長）

井上 健、小川 千登世、奥山 宏臣、康 勝好、塩飽 仁、菱木 知郎、天野 功二、
滝 智彦、藤 浩、淵本 康史、多賀 崇、松本 公一、盛武 浩、高橋 義行
（以上理事）、

檜山 英三（監事）、菊田 敦（第 62 回学術集會会長）、井上 雅美（第 63 回学術集
會会長）、越永 従道（第 64 回学術集會会長）

欠 席 者：西川 亮（理事）

冒頭に、本日の理事出席者数は 17 中 16 名であり、定款施行細則第 8 条第 3 項に定める成立定足数を満たしているため、本理事会は成立することを確認した。

続いて、大賀正一理事長が議長となり、以下の議案について逐次審議に入った。

I. 前回理事会議事録（案）の確認

議長より、前回議事録（案）が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

II. 審議事項

1. 入会申請者の件

松本庶務・財務担当理事より、資料をもとに現在の会員数の報告、入会申請者 39 名が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

2. 会費滞納による正会員資格喪失者の復会要望書

松本庶務・財務担当理事より、資料をもとに説明された。所属先変更後に住所変更の手続きが無く、学会年会費の滞納により 2018 年度末で正会員の資格を喪失していたが、資格喪失者本人より復会要望書の提出があった。未納分の年会費を全て完納する事を条件に今年度より復会を認めるとして議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

3. 新規評議員申請者の資格審査、評議員資格更新における「別に定める関連学会の学術集會」の選定、社員総会時の欠席委任状について

井上評議員等資格審査委員会担当理事より、資料を基に説明がなされた。

本年度の新規評議員申請(4 月 12 日締切)に関して、25 名の申請があり、審査の結果、25 名全員が資格を満たしていると判定したことについて承認が求められ全員より異議なく承認された。

また、評議員資格更新時の要件「別に定める関連学会の学術集會」の選定について、評議員資格更新条件の改定に伴い、改定定款施行細則第 2 条の 2 の「別に定める関連学会の学術集會」に

ついて、各領域の理事・当委員会委員の推薦および優先順位をもとに委員会内で検討し、以下の各領域より候補とする学会を選出した。

1. 放射線 : 日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会
2. 脳神経外科 : 日本脳腫瘍学会、日本小児神経外科学会
3. 病理 : 日本病理学会、日本臨床細胞学会
4. 上記以外の臨床系 : 骨軟部腫瘍学術集会、日本サルコーマ治療研究学会
5. 基礎医学 : 日本癌学会、SIOP
6. 看護・医療・支援 : 日本小児がん看護学会、日本小児保健協会

これらの学会の学術集会の参加を更新資格に認めることについて、全員異議なく承認された。

また、本年度の定時社員総会の開催形式は、新型コロナウイルスの感染対策から昨年度同様に Web 形式となる。そこで、昨年度と同様に、定款施行細則に規定されている「委任状の提出は出席と認めない」ことについては、特例として適用しないこととし、Web 会議への出席もしくは委任状提出をもって出席と認める、とすることについて審議がなされた。他学会でも Web 形式での開催が多数ある状況から、Web 会議形式に慣れてきた状況と推察し、上記の「委任状の提出は出席と認めない」を適用する方針とすることについて全員異議なく承認された。

4. 評議員の資格更新についての定款施行細則改定案について

滝規約委員会担当理事より資料をもとに説明された。

評議員の資格更新についての定款施行細則改正案について、前回理事会で承認された内容を基に、文言の修正を加えることについて議場にその承認が求められ、全員異議無く承認された。

5. 第 63 回学術集会 Web 開催への変更に関して

井上第 63 回学術集会長より、資料をもとに説明された。

別途メール審議での通り、本年 11 月開催の学術集会に関して、当初は現地開催(大阪国際会議場)の計画だったが、Web 開催形式へ変更となった。本件について、3 団体 (共催の日本小児がん看護学会、がんの子どもを守る会) の連名で、理事会終了後に全会員へメール配信と学術集会ホームページで周知していく方針について議場に承認が求められ、全員異議無く承認された。

また、製薬会社 1 社から、大会内でスポンサードセミナー開催の申し出があったことが報告された。

6. 専門医制度規則・細則改正案について

米田専門医制度委員会担当理事より、専門医制度規則と施行細則の改定案について、資料を基に改定案が説明された。内容は、前回理事会で承認された「小児血液・がん専門医研修施設」の規定の文面修正についてであり、全員異議無く承認された。

7. 学会疾患登録の一括倫理審査について、アセント文書について

藤学術・調査委員会担当理事より、資料をもとに説明された。

「20 歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学研究」学会疾患登録の、施設登録状況は固形腫瘍 30/177、血液疾患 30/242 と低調な状況である。研究計画書第 3 版から第 4 版への更新の際に不手際があり一部で混乱を招いてしまったことと、各施設の倫理審査承認書の提出状況が未だ低い状況であることによるものと思われる。

本件に関して、議場からは次のような意見が述べられた。

- ・施設登録状況が低いと、2020年度の疾患登録集計結果が前年に比べ数値が劣り、研究結果として数年間分を並べた際に、きちんと比較できなくなる恐れがある。経過措置として、2019年度分も含める等対策を考える必要がある。
 - ・専門医制度において、施設の症例数は疾患登録された症例数でカウントすることになっており、施設新規認定・更新にも影響が出る恐れがあるので、対策が必要である。
- ⇒委員会で確認する。

あわせて報告事項として、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（以下、生命・医学系指針）」により、学会疾患登録は一つの倫理審査委員会による一括審査の対象となりうるため、次回の研究計画書改定時(第5版改定時)には、一括審査も委員会で検討していく件、本研究の低学年、高学年用アセント(患者への説明資料)を作成したので、第4版の変更申請を研究審査委員会に申請する件などが報告された。

8. OSCR との疾患登録事業の業務委託契約書に関して(

大賀理事長より、昨年令和2年度の「20歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学研究」学会疾患登録事業の、血液疾患の登録の実作業担当である特定非営利活動法人 臨床研究支援機構 (NPO-OSCR) との業務委託に関する請求について報告され、これについて全員異議なく承認された。なお、今後は、業務委託契約の内容についてより細やかに確認を行う方針と報告された。

9. 第19回 SGH 特別賞候補者について

大賀理事長より、説明された。

公益財団法人 SGH 財団より、毎年恒例の SGH 特別賞（がんの基礎及び臨床研究に顕著な功績を挙げ、かつ、今後の発展が期待される方を対象とした賞）の学会からの候補者推薦の依頼があった。

本年度に関しては、滝田副理事長からの応募があり、学会からの候補者推薦について議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。理事会終了後、SGH 財団へと申請を進める。

10. 学会内資料共有用 Dropbox に関して

大賀理事長より、資料をもとに説明された。現在、学会として Dropbox 等の資料共有目的のオンラインストレージサービスの利用が無く、利用可能容量と年間コストを考慮し、新たに DirectCloud-BOX の利用を行うことに、全員異議なく承認された。

11. 次回理事会および社員総会日程案について

大賀理事長より、説明された。

毎年6月頃に行っていた定時社員総会は、本年は7月31日(土)13:00~15:00で行うこととなった。また、毎年定時社員総会前後に理事会を開催していたが、本年度に関しては定時社員総会より前の6月25日(金)15:00~17:00に理事会を開催することになった。

12. 先天性溶血性貧血診療ガイドラインについて

大賀理事長より、資料をもとに説明された。

溶血性貧血の研究班（伊藤班）から、日本血液学会に溶血性貧血の指定難病化についての問い合わせがあるようだが、日本血液学会として先天性溶血性貧血に関してのガイドラインはない。これらの情報を整理する中で、2017年本学会の診療ガイドライン委員会で編集発行した、「先天性骨髄不全症診療ガイドライン」が学会ホームページに当時掲載されないままとなっていることが分かった。

「先天性骨髄不全症診療ガイドライン」の学会ホームページ掲載について議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。今後は、「先天性骨髄不全症診療ガイドライン」を改定し、「先天性溶血性貧血診療ガイド」を組込むこととし、指定難病化を学会として進めることについても全員異議なく承認された。

13. 臓器横断的ゲノム診療ガイドラインの改定に関して

大賀理事長より説明された。

「成人・小児進行固形がんにおける臓器横断的ゲノム診療ガイドライン」の第2版から第3版への改定作業が進んでいる。本学会としては、前回第2版の際は、編集協力という立位置で編集費等の費用負担は無かったが、第3版から編集に本格的に携わることとなった（日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会と共同となる）。あわせて、今回から出版への費用出資が発生する。出版への出資割合 200万円を2:2:1として、本学会は40万円（印税+転載許諾費用もこの割合で折半）である。編集作業のメンバーも、前回第2版は5名⇒7名へと増員（主に理事長諮問委員会の遺伝性腫瘍委員会メンバー）する。本学会として、これら第3版から編集に携わることについて、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

14. 日本小児科学会雑誌 分科会からの推薦総説の募集に関して

大賀理事長より説明された。

日本小児科学会の和文誌編集委員会から、毎年恒例の、日本小児科学会雑誌（日児誌）推薦総説の投稿依頼があった。小児科学会員向けの内容として、本学会評議員の加藤元博先生に「小児領域におけるがんゲノムの実装～白血病と固形腫瘍から～（仮）」などの内容で投稿いただくとして、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

（事務局注：本理事会終了後、加藤先生に本件についてお伝えしたところ、数か月前に小児科学会で「小児がんゲノム医療」に関する教育講演をしたため、5月初旬に教育講演の内容を投稿する運びとなっており、短期間に同様の内容の投稿となってしまうことから、滝田副理事長にて「小児がんの治療の最新のトピックス、分子標的治療にも触れて、ゲノム医療につなげる」という内容で執筆いただくこととなった。）

15. 小児がん診療ガイドライン、小児白血病・リンパ腫ガイドライン（いずれも2016年版）の改訂作業に関して

多賀診療ガイドライン委員会担当理事より説明された。

小児がん診療ガイドライン、小児白血病・リンパ腫診療ガイドラインともに4年周期での改訂を予定していたが、前回2016年以来改定作業ができていない為、今年度より着手することにつ

いて、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

なお、改訂にあたり、CQの登録をシステムティックレビュー形式とすると、外部業者へ作業委託となるが、外部業者への委託費用に関しては、今後の理事会で報告予定となった。

Ⅲ.報告事項

1. 第64回学術集会について

越永第64回学術集会長より、第64回の学術集会の開催予定について報告された。

開催日時：2022年11月25～27日

開催場所：東京 虎ノ門ヒルズフォーラム

1、2日目は対面集合式、3日目はWeb開催の予定

2. 2022年度診療報酬改定JSPHO提案について、選定療養として導入すべき事例等の提案・意見について

保険診療委員会 小川担当理事より報告された。

「選定療養として導入すべき事例等」について6月半ばが締切となるため、提案がある場合は委員会にご連絡いただきたい。また、学会員にも周知し募集を行う。

2022年度診療報酬改定の本学会からの提案に関しては、既に内保連へ提出済である。

3. 6/13(日)教育セミナープログラム案、2020年度CLIC収支報告書

盛武教育・研修委員会担当理事より資料をもとに説明された。

6月13日(日)13:00～16:55 教育セミナーをWeb開催予定である。企業との共催セミナーに関して、利益相反の観点から複数社での開催をすべく新たに企業にオファーしたが、1社のみの参加となった。

今後、毎年冬場以降の地区セミナーには複数社の参加があるように、趣意書を再度用意して準備を進める予定である。

あわせて、昨年度2020年度のCLIC（小児医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会）の収支報告がなされた。

また、本年度2021年度のCLICは2回/年開催予定で、第1回は7月3日開催、参加申込み受付中だが、昨年度の参加申込みから落選した方、来年度2022年度から専門医の新規申請および更新要件にCLICの受講が必須となることから、2022年度専門医更新予定かつこれまでCLIC未受講の方を優先して参加登録を進めることとした。

4. がん治療認定医機構のe-learning利用および専門医制度委員会報告

米田専門医制度委員会担当理事より報告された。

がん治療認定医機構のe-learning利用について、がん治療認定医機構 西山理事長より、「ご利用いただくことは当機構にとっても大変喜ばしい。利用料に関して、利用期間、利用者数によって金額が変動する。詳細な金額は、利用方法がある程度決まっのち、業者等と詰めることになる」とのことであった。

本年度の専門医・指導医・認定外科医・専門医研修施設の認定資格更新に関して、一部未確定の部分もあるが、

専門医：更新対象者54名、申請者49名、猶予申請3名、更新辞退（無連絡）2名

指導医：更新対象者 32 名、申請者 32 名

認定外科医：更新対象者 44 名、申請者 17 名、猶予申請 2 名、更新辞退（無連絡）25 名

研修施設：77 施設、更新申請 76 施設、辞退 1 施設。

であった。

認定外科医の更新者が少ないことについては、2018 年で認定期限が切れているがん治療認定医暫定指導医の資格で本資格を取得された先生方が更新していないと思われた。また、小児外科手術の減少も理由のひとつとなっている可能性が委員会内で指摘された。

なお、専門医試験は、9 月 11 日・12 日（土・日）に、TKP 品川にて新型コロナウイルスの感染対策を施した上で実施予定である。

5. 令和 3 年度 LCAS セミナーに関して

大賀理事長より、本年度 LCAS（小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップ体制整備事業）のセミナー開催日程について、報告された。

6. 女性医師活躍支援委員会 活動報告

滝田女性医師活躍支援委員会担当理事より資料を基に説明された。

4 つの検討項目に対し、それぞれ WG を設置し対応する。また、本年度の学術集会にて、女性医師活躍支援委員会 特別企画「女性医師キャリア支援セッション」を企画中である。

以下、大賀理事長より報告された。

7. 日本癌治療学会 領域横断的癌取扱い規約検討委員会への委員推薦のお願い

本年度は米田理事にご担当頂くこととなった。

8. ジャパンキャンサーフォーラム大会共催依頼

昨年度同様にセッションの共催をすることとなった、発表者については別途検討していく。

9. 環境省 環境保健部の検討会（13 歳以降のエコチル調査）について

環境省の環境保健部の検討会（13 歳以降のエコチル調査）に、本会を代表して米田副理事長に参加頂くこととなった。

10. がんの子どもを守る会 2021 年度年次大会の後援について

昨年度同様、本学会として後援を行うこととなった。学会ホームページお知らせ欄にて大会のパンフレットを掲載済である。（6 月 6 日 13:00～Web 開催予定）

11. GD2 抗体について

まもなく発売開始だが、会員への注意呼びかけを 7 月定時社員総会時に実施予定である。

12. 日本医師会医学賞の募集について

毎年恒例の募集が今年もあり、理事会として檜山監事の推薦について承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

13. 朝日新聞投稿のお返事

前回理事会で報告された、2021年3月17日朝日新聞掲載の「ひととき」欄に、50年前に白血病で2人のお子さんを亡くされた親御さんからの寄稿の件で、JCCG(日本小児がん研究グループ)と本学会の連名でお返事を朝日新聞社へ提出した。お返事文面の一部が2021年5月13日朝日新聞朝刊「ひとときだどって」～掲載開始から70年～「息子が残した詩 家族を支え半世紀」に掲載された。

以下、文面より引用。

“日本小児血液・がん学会と日本小児がん研究グループからも、連名でメッセージが届いた。

「子どもの白血病は、50年前はまさに『不治の病』でした」としたうえで、世界中での研究と治療法の開発で病を乗り越える子どもも増えてきたと説明。越後さんら医療の進展に協力してきた当事者や家族に感謝した。“

15. 他学会挨拶状 日本造血・免疫細胞療法学会【旧・日本造血細胞移植学会】

本年4月1日より、日本造血細胞移植学会が学会名を変更し、「日本造血・免疫細胞療法学会」となる旨、連絡があった。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。

以上の決議を明確にするため、出席した理事長及び監事がこれに記名押印又は署名する。

令和3年5月28日

日本小児血液・がん学会 第59回理事会

理事長 大賀正一 ㊟

監事 檜山英三 ㊟